

慶長六年（一六〇一年）、徳川家康が東海道の宿駅伝馬制度を定め、街道の整備を始めてから四百年あまりもの歳月が流れました。
慶長九年（一六〇四年）には、江戸日本橋が五街道の起点となり、その後、五街道を中心に、里塚や並木などの施設が次々と整備され、東海道を日本を支える大動脈として、人物・文化・交流に大きな役割を果たしてきました。さまざまな歴史を運んだ東海道、この道を歩き、踏みしめ、道が果たしてきた役割、これからの姿を見つめます。

東海道四百年の歩みを踏みしめる



現在の道を守っています

かつての東海道は、現在国道1号や15号として、人の移動や物流を支えています。横浜国道事務所ではこれら神奈川県内の主要な国道（神奈川県内の国道延長の約4割にあたる約258km）を管理しています。道路を安全で快適に使っていただくために、日々の点検やパトロールをはじめ、道路構造物の補修や修繕、清掃作業などを行っています。

宿場マップについて

東海道には53の宿場が（神奈川県内では9宿）ありました。これらの宿場は旅の宿として繁盛し、現在でもその周辺には当時の名残をとどめる史跡や名所が数多く残っています。そこで、このマップでは道中の見どころや自然、行事などを広く網羅して、歩きながら東海道の「むかし」と「いま」が楽しめるように神奈川県内の9宿を5冊に分けて編集しています。
なお、表示していますルートは概ね旧東海道に沿ったウォーキングルートであり、実際の旧東海道とは異なる場合があります。

小田原宿

13 小田原城

前身は、室町時代に大森氏が築いた山城。その後、戦国大名小田原北条氏、譜代大名大久保氏等、城主は変わりましたが、大いに栄えました。現在、城址公園である本丸・二の丸は国指定史跡として、銅門（あかがねもん）や馬出門（うまだしもん）などの復元整備も進み、当時の様子を伝えています。



14 報徳二宮神社/報徳博物館

報徳二宮神社は小田原の生んだ農聖、二宮尊徳（金治郎）翁を祀るため、明治27年（1894年）に創建されました。また、報徳博物館は幕末の疲弊した社会の再建人・尊徳二宮金次郎の、「報徳」と呼ばれる人づくり、国づくりの思想とその業績を伝える博物館です。
※毎週水曜日定休日



15 清閑亭

清閑亭は、明治末期から大正初期にかけて黒田長成侯爵の別邸としてつくられた邸園（建物と庭園）です。建物は国の登録有形文化財となっています。



16 居神社

板橋と山崎町の氏神。境内には鎌倉末期の古碑群が残されています。



23 萬松院

徳川家康の嫡男松平信康供養のために文禄元年（1592年）、小田原城主大久保忠世が開基しました。



24 長興山紹太寺

黄梨宗の名僧鉄牛和尚が開山。小田原藩主稲葉正則は寛文9年（1669年）、城下の山崎町（南町）にあった菩提寺を入生田村に移し、長興山紹太寺を建立しました。稲葉一族の墓所や鉄牛和尚の寿塔があります。



東海道 知っ得版

外部博物館

「うしろう」はもともと外郎（うしろう）家の姓で約六百年前、外郎家二代目が自らつくって客の接待に供したお菓子のがじまりです。明治18年築の蔵を利用した小さな博物館では、「うしろう」の名の由来、お菓子の葉の起源、歌舞伎十八番「外郎売」との関係などを知ることができ、また甘味喫茶もあります。



箱根新道（13.8km）が無料に

昭和37年に一般有料道路として供用を開始しましたが、平成23年7月の料金徴収期間満了に伴い通行料金が無料となり、現在は横浜国道事務所が管理を行なっています。無料となり料金所は撤去されましたが、自動車専用道路ですので、125cc以下の自動二輪や自転車、歩行者の通行は出来ません。

12 正眼寺

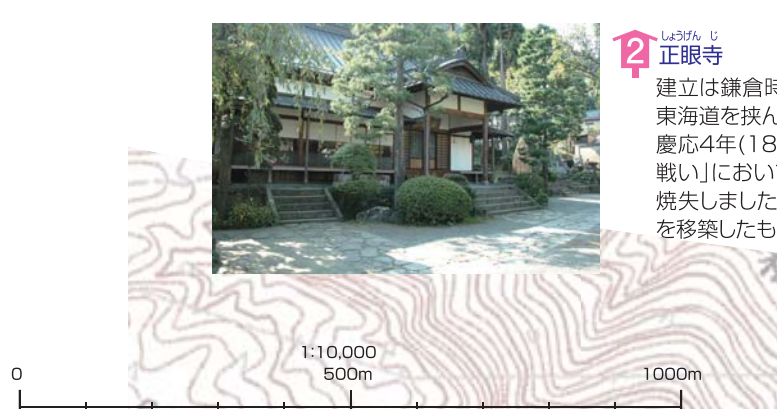
建立は鎌倉時代まで遡ります。江戸時代には、東海道を挟んで反対側に地藏堂もありました。慶応4年（1868年）、戊辰戦争の「箱根山崎の戦い」において敗走する遊撃隊の放火により、焼失しました。現在の本堂は、昭和7年に別荘を移築したものです。



東海道 知っ得版

箱根七湯

箱根には17以上の温泉場があります。なかでも箱根七湯は江戸時代から賑わっている代表的な湯治場で、筋肉痛などにも効能があり、疲れた足腰を休めるのに立ち寄ってみるのもいいでしょう。
※注 湯本温泉、塔之沢温泉、堂ヶ島温泉、宮ノ下温泉、底倉温泉、木質温泉、戸之湯温泉 温泉地…



箱根町立郷土資料館

館内には、江戸時代頃を境に現在の温泉観光地へと移り変わっていく様子を、温泉開発などを絡めて紹介した常設展示室をはじめ、特別展や企画展を展示する特別展示室、約2万冊の参考図書を備えた図書室などがあります。
開館時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）
休館日：毎週水曜日、毎月最終月曜日、12/28～1/4

小田原文学館

北村透谷、北原白秋、谷崎潤一郎、三好達治、尾崎一雄など、小田原出身及びゆかりの文学者の資料を展示しています。文学の町、小田原を物語る施設です。
開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）
休館日：12/28～1/3

小田原市郷土文化館

自然・考古・歴史・民俗の分野からなる総合博物館です。郷土をとりくみ豊かな自然と、城下町・宿場町として発展した小田原の歴史や文化を紹介しています。
開館時間：9:00～17:00（観覧無料）
休館日：12/28～1/3
3月中旬～下旬（燻蒸作業による）

小田原市郷土文化館分館 松永記念館

電力王・松永安左エ門ゆかりの品々や小田原市所蔵の美術品を公開しています。園内にある国登録有形文化財の老樺荘や栗雨庵は、茶会等の利用も可能です。
開館時間：9:00～17:00（観覧無料。特別の展示の際、有料の場合があります。）
休館日：12/28～1/3

街かど博物館

明治の元勲山崎有朋が、明治40年（1907年）に構えた別荘で、「古稀庵」と命名されました。残念ながら当時の建物はありませんが、近代日本庭園の傑作といわれる庭園は毎週日曜日に参観できます。

板橋の地藏尊

「板橋のお地藏さん」と地元で親しまれています。永禄12年（1569年）春林寺九世の文察和尚が、湯本宿の古堂に祀られていたものを現在地に移転しました。

小田原用水（板橋上水）取入口

小田原北条氏時代に小田原では古水道がつくられ、城下での飲用水として使われていました。この地は、その際の取入口で早川の水を取り入れていました。

小田原箱根道路

西湘バイパス・小田原厚木道路と箱根新道を結ぶ国道1号のボトルネック解消を目的とした、延長約2.2kmの4車線バイパス道路です。

なりわい交流館

昭和7年に建設された旧網問屋を再整備し、平成13年に市民や観光客の「憩いの場」として、開館しました。誰でも立ち寄れる「お休み処」や市民活動の発表の場として利用されています。

開館及び利用時間
●観光案内・お休み処（1階）
4～10月 10:00～19:00
11～3月 10:00～18:00
●イベントスペース（2階）
10:00～22:00（事前予約制）
休館日：原則として年中無休

18 光円寺

寛永年間に、三代将軍家光の乳母である春日の局が開基した寺です。



17 傳耀寺

浄土宗の寺。創建は1300年代。詩人の北原白秋が境内に「みづくの家」を建て、大正7年から15年まで、ここでたくさんの童謡を発表した。山田耕筰作曲の「かやの木山」のモデルの木が境内に立っている。